

K.C.クロスウェイトがベイパー業界の未来をテーマに基調講演を行いました。

企業ニュース

2020年9月21日

本日、Juul ラボのCEO・会長であるK.C. クロスウェイトは、2020年世界タバコ・ニコチンフォーラム(GTNF)で基調講演を行い、未成年者の使用撲滅に向けたJuulラボの不動の取り組みとともに、成人喫煙者にとってベイパーカテゴリーが持つハームリダクションの可能性について話しました。

毎年開催されるGTNFは、すべての関係者が一堂に会し、タバコとニコチン市場に持続可能な変化をもたらすための、イノベーションと規制の利用について話す貴重な機会を提供しています。K.C.が議論したように、この歴史的なハームリダクションの機会を完全に実現するためには、このカテゴリーはすべての関係者と協力して、未成年者の使用を防止する規制の枠組みを構築すると同時に、成人喫煙者の間でベイパー製品が可燃性タバコと競合できるようにしなければなりません。

このコラボレーションは、特にJuulラボとベイパーカテゴリーが信頼を再び獲得し、社会で活動するためのライセンスを確立するために取り組む中で、オープンな関与から始まります。

[基調講演はこちらからご覧いただけます](#)

配信に際し、発言全文をご用意しましたのでご覧ください。

<発言全文>

世界中からご参加いただいている皆様、こんにちは。

この重要な集まりで発表する機会をいただき、ありがとうございます。そして、この会を準備してくださったエリース、GTNFチーム、諮問委員会の皆様に感謝申し上げます。

我々がタバコによる害を減らす努力をしている中、このフォーラムは重要な局面、言うなれば転換期に開催されています。

今日、成人喫煙者はかつてないほど多くの不燃性製品を選択できる一方、紙巻きタバコの復活が見られ、懸念が広がっている国もあります。

Juulラボでは、成人喫煙者を紙巻きタバコから移行させる取り組みを行っています。私が1年前にこの会社に加わったとき、私はこの目標に向かって全面的な見直しを促し、組織改編を進め、再び焦点を合わせることに努めました。今日、我々は可燃式タバコの時代を終わらせるという目標の達成に向け、これまで以上に熱心に取り組んでいると、はっきりと言うことができます。

本日、この時間を使い、現時点での3つの見解と、今後どのような方向に向かっていくのかについてお話ししたいと思います。

最初に、議論となっている**ハームリダクションの機会**についてお話ししたいと思います。今の我々には、これまで決して実現できなかったこと、すなわち紙巻きタバコ喫煙の時代を永遠に終わらせるためのツールと技術があると、自信をもって、また、極めて楽観的に言うことができます。

次に、この**市場変革を阻害する要因**についてお話ししたいと思います。喫煙者の誰もが不燃性製品を手に入れられるわけではありません。世界中の規制の枠組みは、紙巻きタバコに有利に働いているのです。

その上、多くの喫煙者は、紙巻きタバコと比較した場合のリスクに戸惑っています。こうした製品についての誤解はこれまでになく高まっています。このことは、当社の業務に対する信頼の低下と相まって、紙巻きタバコから切り替えようとする成人喫煙者の決断力を妨げています。その信頼を築くために、業界として何をすべきかについてお話ししたいと思います。

三つ目に、**ニコチンとタバコ製品のリスクに比例した規制の基本原則を、我々がどのように考えているか**について、皆様と分かち合いたいと思います。こうしたシステムを実現するためには、政府、市民社会、公衆衛生機関、そして業界が協力して取り組む必要があります。関係機関がうまく連携すれば、紙巻きタバコの時代の終焉を加速させることができます。

ニコチンの使用に対する我々の基本的な取り組み

話の核心に入る前に、まずニコチンと、その使用に対する我々の基本的な取り組みをご説明します。

ニコチンは中毒性が高く、有害となることもあります。ニコチンを摂取していないのであれば、摂取を始めないでください。喫煙者であれば、喫煙をやめるのが一番です。もっとも、喫煙をやめない喫煙者も多くいることを我々は知っています。こうした喫煙者については、不燃性製品へ完全に切り替えることが、喫煙関連の病気を発症するリスクを減らす、ひとつの手段となる可能性があります。

私はまた、未成年者の喫煙を高い水準にしてしまうという犠牲を払って、成人喫煙者のハームリダクションを進展させることはできないと、明確に申し上げたいと思います。未成年者は、いかなるタバコ、ニコチン含有製品であろうと、それらを手出し、使用すべきではありません。

ここ数年、我々は多くの重要な教訓を得てきました。そしてJuulラボでは、様々な活動を通じて改革に取り組んでいることを示すため、懸命に努力をして参りました。今日、我々はこれまで以上に規律を守り、当社の製品が担う責任に重きを置いています。

近年、米国では、JUUL製品の使用を含め、未成年者によるペーパー製品の使用が、容認できないほど増加しています。米国ではこのところ期待の持てる傾向がいくつか見られますが、当社の製品が、対象とする成人喫煙者によって確実に使用されるよう、現在も今後もさらに多くの対策を行う必要があります。

この夏、我々は米国食品医薬品局 (FDA) に対し、JUULシステムの市販前タバコ製品申請書を提出しました。JUUL製品の継続的なマーケティングが公衆衛生の保護に適しているかどうか。当社がしっかりとした申請を行うことで、この点に関するFDAの決定を周知するのに役立つと考えています。当社の申請書には、あらゆる分野にわたる110以上の独自の科学的調査、そして125,000ページに及ぶデータと分析が含まれています。内容は、化学から毒物学、臨床研究、行動研究、そして全てを結びつける人口モデルにまで及びます。

私は、我々のチームが行ってきた仕事を誇りに思っています。我々の研究を規制機関と共有し、査読済みの文献、会議、その他の科学的な場を通じ、世界の公衆衛生コミュニティとの科学的対話に参加することに力を注いでいます。

ハームリダクションの機会

数十年にわたる研究から、ニコチンが複数のリスクを伴って送達されていることが分かっています。その複数のリスクの一端にある可燃性製品が、最も有害な形態でニコチンを送達する一方、ペーパー製品などの不燃性製品はこれらのリスクを低減します。世界中にいる10億人の成人喫煙者は、この複数のリスクを低減し、タバコの煙を排除することで、リスクを減らすことができるのです。これがタバコのハームリダクションの核心です。

当社の製品に詳しくない方のために申し添えますと、JUULシステムは、タバコを燃やすことなくニコチンを送達します。代わりに、密閉された耐タンパ性のポッドでニコチン溶液を加熱し、エアロゾルを生成します。デバイス技術とソフトウェアにより温度が正確に制御され、タバコの煙に含まれる毒性物質の生成を最小限に抑えます。

しかし、多くの成人喫煙者が切り替えるためには、不燃性製品が紙巻きタバコとうまく競合する必要があります。つまり不燃性製品は、十分に満足できるレベルでニコチンを送達しなければならないのです。こうした製品は、数十年とは言わないまでも、何年間も使用してきた紙巻きタバコを、喫煙者にやめさせることができなくてはなりません。

我々の研究によれば、JUUL製品は成人喫煙者にとって満足のいく代替製品となっています。米国では、JUUL製品を使用することで、過去5年間で約200万人の喫煙者が紙巻きタバコから完全に切り替わったと推定されています。

それは長い道のりにおける重要で素晴らしい第一歩です。この研究の一部をご紹介します。

こちらはJUUL購入者の切り替え率です。グラフからわかるように、購入後12ヶ月で、全成人喫煙者の58%という非常に高い完全切り替え率となっています。我々の行動研究における切り替えとは、過去30日間、いかなる喫煙もしない、ふかすことさえしないことを意味します。

こちらの右端のグループは、少なくとも5年間、日常的に喫煙してきた成人喫煙者で、通常、切り替えることがより難しいと感じている人たちです。しかしこのグループでさえ高い切り替え率が見られ、43%が12ヶ月で完全に切り替えたと報告しています。

全グループの喫煙者はおしなべて、二重使用が減少するにつれ、時間の経過とともに切り替えが増加しました。このように多くの喫煙者に切り替えの可能性があるというのは、歴史的な機会と言えるでしょう。我々全員、つまりこの紙巻きタバコとの闘いの中にいるすべての関係者が、生涯の内に意義のあるハームリダクションを真に実現しなければならないという機会を示しているのです。

リスクに比例した規制のあり方：市場変革を阻害しかねない現状

続いて、私が本日お話ししたいポイントの二つ目です。世界中に、紙巻きタバコに代わる、潜在的リスクの低い、幅広い種類の革新的な不燃性製品があります。これは非常に大きな公衆衛生の可能性と言えます。

しかし今、我々の事業に対する信頼の喪失と、それが生み出した根拠の薄い規制の現実を考えると、これまで以上にその機会を失うリスクがあります。

冒頭で述べたように、Juulラボに加わって以来、私は当社のいわゆる「全面的見直し(リセット)」に全力を傾けてまいりました。これは、当社の方針や業務と、当社の関係者の期待との整合性を高めるための包括的な取り組みを意味し、その確固たる勢いを再燃させ、信頼を得るために非常に重要です。

しかし、すべてのペーパー製品カテゴリーのみならず、我々自身が今、転換点にいることを認識しており、意義のあるハームリダクションの目標や可能性がどちらに転ぶかはわからない状況です。

誰もがご存知のとおり、紙巻きタバコは世界中どこでも入手でき、喫煙されています。同時に、世界の人口の3分の1は、ニコチンペーパー製品を積極的に禁止している国に住んでおり、こうした国に住む喫煙者は取り残されているのです。

こうしたことや、他の規制の結果として、ペーパー製品は10年以上にわたって入手可能であるにもかかわらず、タバコの総売上に占める割合はわずかであり、世界の可燃式タバコの売上の3%未満です。

この不均衡に加え、我々が切り替えに成功した米国において、紙巻きタバコの喫煙が復活しています。これは仮定の話ではありません。

例えば、不燃性製品へのメンソール使用を禁止している州や地方の条令がある一方、メンソールの紙巻きタバコは手付かずで、どの街角でも手に入れることができます。

こうした規制を複雑にしているのは、リスクについての誤解です。その結果、代替製品に切り替えた喫煙者がその使用をやめ、紙巻きタバコに戻っているのです。

昨年的大幅な減少に対し、今年の紙巻きタバコの売上げは予想を上回るものとなっており、もし現在の路線を進み続けるのであれば、この傾向が世界中で再現するリスクがあります。

リスクに比例した規制のあり方:ニコチン規制の基本原則

我々は当社の製品や事業に対して責任を負う必要があり、これには未成年者による使用を食い止めることも含まれます。我々は、ハームリダクションに重きを置いた世界に積極的に貢献したいと考えています。それには、業界、規制機関、そして3つの重要な領域にかかわるすべての関係者の努力が必要です。

一つ目は、是正されなければならないニコチンに関する誤解が依然として広く信じられていること。

二つ目は、革新的で、より害の少ない不燃性製品市場への明確な道筋を提供するために、規制の枠組みをつくる必要があるということ。

三つ目は、紙巻きタバコからの切り替えを加速するために、規制はリスクに比例する必要があるということです。

残りの時間で、この3つの領域それぞれについて、少しお話ししたいと思います。

喫煙関連の病気に対してニコチンが果たす役割については、深刻な誤解があります。米国FDAが行ったこの調査からわかるように、成人の約80%が、タバコ関連の癌は主にニコチンによるものであると考えています。

もちろん、この認識は間違っています。ニコチンは中毒性が高いですが、喫煙がもたらす計り知れない害の原因ではありません。紙巻きタバコに火をつけると、タバコと紙が燃え、煙が出ます。この燃焼プロセスが、癌のような喫煙関連の疾患を引き起こす毒性物質を生成し、送達するのです。

しかし、人々は混乱しています。皆が現に喫煙を続けるのは、こうした誤解からです。結局のところ、すべてのニコチン含有製品が同じように有害であると思うのであれば、なぜ切り替える必要があるのでしょうか？馴染みのある紙巻きタバコを吸い続けてはどうですか？

こうした誤解を是正することは非常に重要です。

世界中から耳にする経験談からは、次のことが明らかです。リスクを軽減する選択をしていると喫煙者が思ったときに、切り替えはより成功します。もちろん、入手できない製品に切り替えることはできません。多くの国では、不燃性製品は市場への道筋をもちません。例えばスヌースは、喫煙を続けるよりも害が少ないと、長きにわたる疫学の研究が示しているにもかかわらず、EUでは禁止されたままです。

不燃性製品は、紙巻きタバコが販売されているところではどこでも入手できるべきです。

もちろん、規制の道りに最低限の品質基準や安全基準を盛り込む必要はありますが、市場に対する事実上の障壁となるほど制限や負担が大きいものであってはなりません。

すべての喫煙者に有効な製品などありません。喫煙者には、紙巻きタバコをやめるのに役立つ様々な選択肢が必要です。しかし今のところ、世界中の喫煙者は住んでいる場所によって、不燃性製品を入手する方法が異なるか、全く入手できません。

ご存知の方もおられるでしょうが、今月初めに私は、世界中のいくつかの市場から当社の製品を撤退させると発表しました。この決定に至るにはいくつかの要因がありましたが、最も重要な要因は、リスクに比例した規制の枠組みがない中で、紙巻きタバコと競合することの難しさでした。

「リスクに比例する」とはどういうことか、ご説明しましょう。こうした枠組みの前提は単純です。最も厳しい規制は最もリスクの高い製品(紙巻きタバコやその他の可燃性製品)に適用されるべきですが、一方で、リスクの低い製品については、紙巻きタバコと比較してバリュープロポジション(価値提案)を高める市場や方針に対し、明確かつ達成可能な道筋があるべきです。

誤解のないように申し上げますと、リスクに比例した規制というのは、不燃性製品に対する「寛大な」アプローチを意味するものではありませんし、規制されていない市場を意味するものでももちろんありません。当社の業務にしっかりとした規制を設けることは、いつにおいても適切なことです。

明らかな例外はいくつかありますが、今日の規制や方針は、このリスクの連続体をあまり認識しておらず、同じようにリスクを伴う製品として扱うか、さらに悪いことに、不燃性製品の負担をより大きくする規制や方針もあります。こうした状況は通常では理解しがたく、非生産的です。

不燃性製品は、とりわけニコチンの送達において、紙巻きタバコと競合できなければなりません。

今日、多くの国ではEUのタバコ製品指令 (TPD) にならい、ペーパー製品中のニコチン濃度に制限を設けています。TPDは、eリキッドのニコチン濃度が最大20mg/mlになるよう指示をしていますが、この指令は、切り替えを促すのではなく、ペーパー製品を紙巻きタバコに比べて魅力の少ない選択肢にすることで、切り替えを妨げている可能性があります。

TPDの意図は、ペーパー製品と紙巻きタバコとの間で同等のニコチン送達を可能にすることでしたが、TPDは直接送達につながらないニコチン濃度に重きを置いています。

このことがJUULシステムにとってどのような意味があるのかお示しましょう。血中ニコチン送達をここに示しています。一番上の赤い線は、紙巻きタバコからの送達です。その下の青い線は、59 mgのJUULシステムで、米国で入手可能です。その下のグレーの線は、18mgのTPD準拠製品です。

ご覧いただいてわかるように、59 mgの製品のニコチン送達は、すでに紙巻きタバコよりも低くなっています。18 mgからの送達はさらにずっと低くなっています。ニコチン送達におけるこうした違いは、切り替え能力に直接影響を及ぼします。

我々の研究によると、成人喫煙者が、より高いニコチン濃度のJUUL製品を利用できる国では、切り替え率が著しく高いことを示しています。

ニコチンにこうした上限を設けると、ペーパー製品が多くの成人喫煙者に受け入れられず、切り替えにつながられません。

TPDの発効以来、市場は発展し、製品イノベーションの進歩により、多くの成人喫煙者にとってより現実的な代替品である、温度制御された魅力的なペーパー製品が実現しました。

紙巻きタバコと競合し、いずれ取って代わるためには、喫煙者が実際に使ってみたいと思う、リスクの低い代替品が必要です。

よって、こうしたリスクに比例した規制の考え方に関しては、何と何が比較をされているかを考えてください。革新的な低リスク製品を導入し、普及させる力は、喫煙者に紙巻きタバコをやめさせる上で非常に重要であることを我々は知っています。また、不燃性製品は、複数のリスクがより低いため、紙巻きタバコより優位にあるべきです。したがって、バランスとしてはハームリダクションの可能性に比重を置いたものであるべきです。

今、ご説明しましたように、不燃性製品は、ニコチン送達に関して紙巻きタバコと競合しなければならないため、ニコチンの最高含有量が、可燃式タバコからの完全な切り替えを妨げる可能性が現にあります。これにより、可燃式タバコに比重が移り、リスクの低い製品離れが意図せずに進んでいるのです。

研究はまた、フレーバーが重要であることも示しています。フレーバーには、喫煙者の切り替えを促し、切り替えた状態を維持するのを助ける可能性があります。しかし、未成年者の使用に対処するにはバランスを取ることが非常にむずかしく、フレーバーがついている場合、未成年者に向けたアピールや、彼らが入手できる可能性を制限する一方で、成人喫煙者に効果的に届く方法で販売する必要があります。

消費者の意識は、リスクに基づく規制が適切な、もうひとつの領域です。切り替えを促すためには、責任ある情報は、成人喫煙者にびたりと合ったものであるべきと、Juulラボは考えています。闇の市場では、リスクの低い他の代替品に関する認識や宣伝を制限し、バランスをもう少し紙巻きタバコ側に移すことで、現に紙巻きタバコを守ることができるのです。

我々はまた、喫煙者に可燃式タバコをやめさせるには、価格が強力なツールとなり得ることもわかっています。規制機関は、紙巻きタバコの価格を引き上げつつ、不燃性の代替品に対するより優れた価値を生み出すためにリスクに基づく課税を検討すべきであり、それにより財政不足を抑えながら国民の健康を改善できます。

そして最後に、ニコチンに関する誤解が紙巻きタバコに有利に働いています。信頼できるソースから明確でリスクに基づいた情報がなければ、紙巻きタバコから切り替える動機はあまりありません。

タバコに火をつける製品と火をつけない製品との間のリスクに関する情報を伝えることに関しては、最も効果的なメッセンジャーとなるのは規制機関と公衆衛生機関と言えます。現在用いられている世界の規制の枠組みは、法規、方針、情報の寄せ集めですが、我々が時代遅れのものになりたい、まさにその紙巻きタバコへと重心を移すのを、実際に助けてしまっているかもしれません。

喫煙をやめない人について言いますと、不燃性製品が紙巻きタバコに完全に取って代わる可能性があります。予防可能な病気や死の大きな原因に対して世界で取り組む機会が、いま目の前にあるのです。この機会を逃すことはできません。

最後になりますが、リスクに比例した規制の枠組みを構築するには時間がかかることを、私は十分に認識しています。しかしながら私は、将来については根本的に楽観視しています。

進め方については、利害関係者の間で大きな意見の食い違いが根強くありますが、紙巻きタバコを喫煙する時代を終わらせなければならないという、ほぼ一致した意見があり、その終焉は早いに越したことはありません。これは私たちが構築することのできる共通の基盤となります。

進化する科学から情報を得ながらこの対話を続ける中、我々は変化を加速させることができると信じています。成人喫煙者の利益となる方針や方法を取り入れ、世界中の公衆衛生を改善することができるのです。

JUULのような製品には、その取り組みにおいて提供できる何か非常に重要なものがあると、私は信じています。そうした製品は本当に、成人喫煙者を可燃式タバコから切り替えさせるのに役立ちますし、私が今まで見た中で最も優れた技術です。

しかし、先に述べましたように、当社と当社の事業が謙虚な姿勢で、かつ我々が当社の製品に対して責任を持つことからまず始まります。それが、私が果たすべき責務です。

本日はこのような機会をいただき、ありがとうございました。ご質問がありましたらお受けいたします。